

# 平成29年度推薦入試 I

一般推薦

小論文

農学部 森林科学科

平成28年11月25日(金)実施

9時00分～10時30分

開始前に以下の注意事項をよく読んでおくこと。

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 「受験番号」は、解答用紙と下書き用紙の両方の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この問題冊子には、2つの設問がある。  
乱丁、落丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には、申し出ること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入すること。  
所定の欄以外に記入したものは、無効である。
5. 下書き用紙も提出すること。

次の2つの設問（問1、問2）すべてに解答せよ。

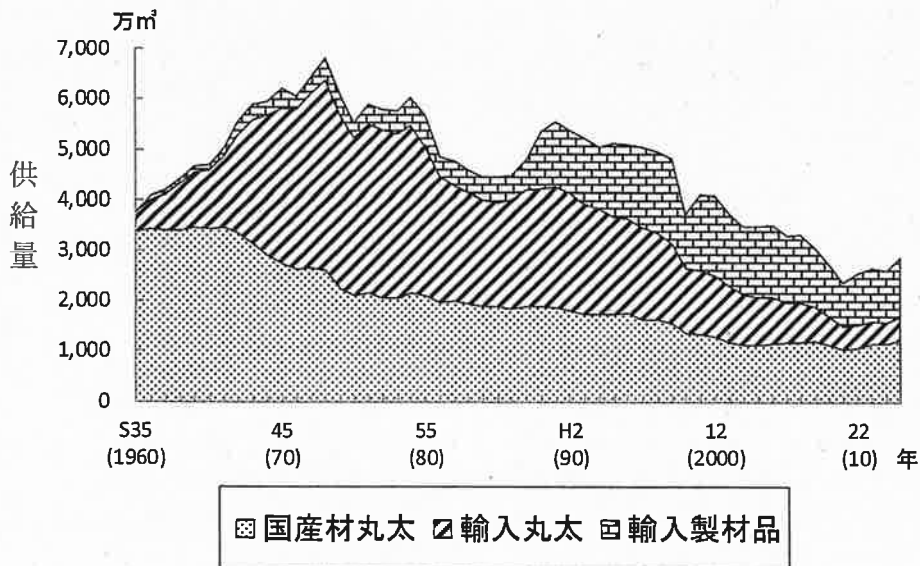
問1

国内における木材需要を拡大させることは大切であるが、併せて国内における林業<sup>(注1)</sup>および林産業<sup>(注2)</sup>の振興を考えることは極めて重要といえる。そこで、(1)木材の中でも主要な位置を占める国産材丸太、輸入丸太、輸入製材品の戦後における供給量の変化について、図-1から読み取れる特徴を時系列に沿って250字以内で述べよ。また、(2)その特徴から考えられる国内の林業および林産業の抱える課題を指摘し、解決策について200字以内で述べよ。

注説明

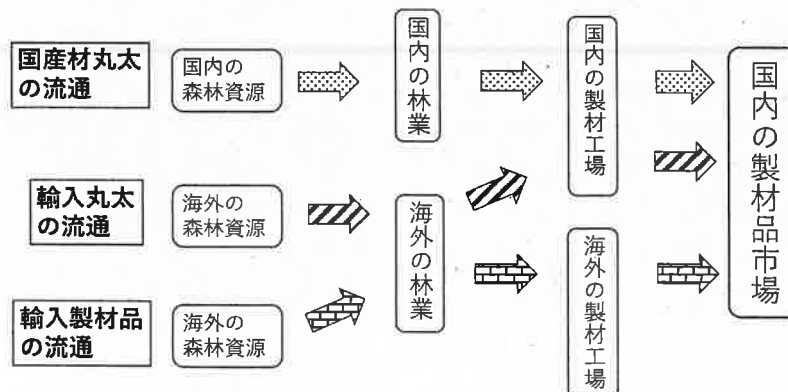
(注1) 林業：森林から丸太を生産する産業

(注2) 林産業：生産された丸太を製材工場などで製材品に加工する産業（図-2参照）



(平成26年度森林・林業白書より作成)

図-1 国産材丸太、輸入丸太および輸入製材品供給量の推移



(矢印はそれぞれの流通ルートを示す)

図-2 国産材丸太、輸入丸太および輸入製材品の主な流通の概要

## 問 2

宇都宮大学農学部森林科学科は教育理念に、“森林と人間との多様で持続的な関係の構築をめざす”を掲げている。以下の文章を参考に、東日本大震災からの復興への取組みを通して見られる、“森林と人間との多様で持続的な関係”とはどのようなものか、森林は様々な機能を有していること、また森林の育成期間やその機能の発揮期間が長期に及ぶことを考慮に入れて、250字以内で述べよ。

平成 23(2011)年 3 月に発生した「東日本大震災」から 5 年が経過し、震災復興に向けた森林・林業・林産業における様々な取組みが進んでいる。たとえば、平成 27 年度版森林・林業白書(林野庁)によれば、地震や津波からの森林等の被害の復旧、海岸防災林<sup>(注1)</sup>の再生および仮設住宅建設や公共建築物での木材の利活用、また原子力災害からの復興では、除染<sup>(注2)</sup>の実施などの森林の放射性物質対策、特用林産物<sup>(注3)</sup>の出荷再開などがあげられる。

### 注の説明

(注1) 海岸防災林：高潮や飛砂、強風などを防ぎ、農地や住宅を守る森林で、津波が来た場合には、植えた木々や敷地内の盛り土で、津波の勢いを和らげたり、船などが住宅地に流れ込んだりするのを防ぐ効果などが期待されている。

(注2) 除染：生活する空間において受ける放射線の量を減らすために、放射性物質を取りのぞいたり、土で覆ったりすること。

(注3) 特用林産物：食用とされる「しいたけ」、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」等のきのこ類、樹実類、山菜類等、非食用のうるし、木ろう等の伝統的工芸品原材料及び竹材、桐材、木炭等の森林原野を起源とする生産物のうち一般の木材を除くものの総称。